

第49回 廃炉・汚染水対策現地調整会議

議事概要

1. 開催概要

日時：令和元年6月3日（月）15：30－17：00

場所：郡山ビューホテル【4階：パラシオ】

2. 出席メンバー

<政府>

磯崎 仁彦	原子力災害現地対策本部長（経済産業副大臣）
由良 英雄	原子力災害現地対策本部 副本部長
大橋 良輔	復興庁 福島復興局 次長
上谷 昌史	国土交通省 水管理・国土保全局河川環境課 河川環境評価分析官
熊谷 和哉	環境省 水・大気環境局水環境課 課長
有林 浩二	文部科学省 研究開発局原子力課 放射性廃棄物企画室 室長
廣山 久志	水産庁 増殖推進部研究指導課 課長
松永 明	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策チーム 事務局長補佐
新川 達也	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策チーム 事務局長補佐
比良井 慎司	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策チーム 事務局総括
田中 克直	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策チーム 企画官
生越 晴茂	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 所長
木野 正登	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 参事官
町屋 政蔵	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 調整官
小野 義世	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 廃炉・汚染水対策官
佐々木 英治	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 廃炉・汚染水対策官
川武當 晴美	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 廃炉・汚染水対策官
狩野 成昭	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 課長補佐
高倉 寧	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 課長補佐
秋元 正人	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 係長
佐藤 義就	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所
片山 淳	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所

<原子力損害賠償・廃炉等支援機構>

上條 仁志	福島第一原子力発電所現地事務所 所長
佐川 寛	福島第一原子力発電所現地事務所 所長代理
永井 正博	福島第一原子力発電所現地事務所

<規制当局>

山形 浩史 原子力規制庁 緊急事態対策監
南山 力生 原子力規制庁 地域原子力規制総括調整官
川又 修司 厚生労働省福島労働局 労働基準部長

<東京電力>

小野 明 常務執行役 福島第一廃炉推進カンパニー プレジデント
大倉 誠 常務執行役 福島復興本社代表
梶山 直希 執行役員 福島第一廃炉推進カンパニー バイスプレジデント
矢代 一男 福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所 ユニット所長

<オブザーバー(福島県)>

菅野 信志 福島県 危機管理部 政策監

●磯崎副大臣 冒頭挨拶

本日はお忙しい中、お集まりいただき感謝いたします。

前回3月の開催から2カ月余りが経ちました。その間、4月には、安倍総理が福島第一原発を訪れ、最新の現場状況を確認するとともに、作業員の方への内閣総理大臣感謝状の授与を行いました。

私自身も、経済産業大臣感謝状、現地対策本部長感謝状の授与を行い、廃炉作業が、企業の高い技術力と作業員の皆様の献身的な作業に支えられていることを再認識致しました。また、授与を受けた企業の皆様から、「今後も全力で廃炉作業に取り組みたい」との廃炉作業への思いを伺い、改めて現場の皆様への敬意と感謝の念を抱くとともに、私自身、今後の廃炉・復興に向けて思いを新たにしました。

6月に入り、福島もまもなく梅雨入りとなります。本日は、汚染水発生量を抑制するために重要な雨水対策の進捗状況を確認するとともに、前回に続き、地下水流入が続いているサイトバンカ建屋への対応状況の報告を受けたいと思います。

また、4月に始まった3号機の使用済燃料取り出し作業や、1/2号機排気筒の解体に向けた準備状況など、重要な廃炉作業の取り組み状況についても、確認したいと思います。

廃炉・汚染水対策は、地域の方々に不安を与えないよう進めていくことが重要ですので、本日の議論を踏まえ、しっかりと取り組んでいくようお願いいたします。本日も忌憚のない活発な御議論をよろしくお願いいたします。

3. 指摘事項

資料 1-1

- 凍土壁等のこれまでの対策により、汚染水発生量が170トン/日まで減ってきており、効果が出てきている。ただし、2018年度の年間降雨量は約1000mmであり、2017年度以前の約1400mmよりも少なく、まだまだ楽観できない。引き続き、汚染水発生量をさらに低減するよう、対策に取り組むこと。
⇒平均的な降雨量に対して汚染水発生量を150トン/日程度まで減らせるよう、さらに対策していきたい。
- 今後の対策に活用するためにも、今年の梅雨・台風期にデータをしっかり収集し、これまでの対策の効果検証を行うこと。
- 汚染水発生量の低減に向けて、一番割合が大きい地下水・雨水の流入対策として、サブドレン水位の低下を前倒しで行うべき。そのために、建屋滞留水処理を前倒しで進めること。
- 豪雨対策として、凍土壁内側への越流を防ぐために土嚢を積む対策は理解。ただし、建屋に流入した水が階段室から地下に入り込まないようにする対策も講じていただきたい。

資料 1-2

- 1/2号機排気筒解体の遅れについて、つり上げ高さ不足の原因が確認不足ということだが、事故から8年経った今もこのようなトラブルが起きることに対して、県民は不安を感じている。3号機の使用済燃料取り出しのトラブルや、窒素封入量不足など、東京電力の取り組みは改善の余地があり、要因分析をしっかりと、実効性のある対策をしてほしい。また、経済産業省、原子力規制庁も指導、監督を改めて徹底してほしい。
⇒ご指摘いただいた件は共通要因があると考えている。経験のない作業が続く廃炉作業における品質管理のあり方について、社内でも検討をしているところなので、引き続きご指導いただきたい。
⇒資源エネルギー庁としては、単にチェック体制を見直すという対策だけでは不十分と考えており、根本的に、なぜこのようなことが起きるのかという観点で指導していきたい。
⇒原子力規制庁としては、排気筒解体の遅れと比較して、3号機の件の方が基本的な確認ができておらず、両者を同列にとらえるべきではないと認識している。福島第一原発においては、全てに完璧な品質保証を求めることでかえってリスク低減を遅らせることもあると考えている。福島第一原発の廃炉作業に対する監視・指導については、リスクを迅速に低減するという観点から、作業の進捗状況やリスク等に応じて、重要なポイントに対して重点的に実施していく。
- 排気筒解体と他工事の並行作業や工期短縮を検討するとのことだが、更なるトラブルを誘発しないよう、くれぐれも安全第一で進めること。
-

- 排気筒解体の遅れにより着手時期が遅れる1／2号機廃棄物処理建屋の雨水対策工事について、汚染水発生量を150トン／日程度まで低減する目標に影響しかねないので、安全第一にしながらも、工期短縮、並行作業はしっかりと検討いただきたい。
- 2号機使用済燃料取り出し方法について、資料を読むとプランBがいいことしかないので見えるので、それぞれの方法をあらためてフラットに検討してほしい。
- 2号機のオペレーティングフロアで使用している散水装置について、水の噴射により放射性物質が拡散していないことを今一度確認してほしい。
⇒オペレーティングフロアの監視はしているが、そのようなことが無いように作業を進める。

●磯崎副大臣からの指摘事項

- 豪雨対策として、斜面の安定解析の進捗を報告いただいた。福島もまもなく梅雨入りし、台風シーズンになる。引き続き、豪雨時のリスク低減対策を計画的に進めてほしい。また土嚢の設置という話もあったが、万全の準備を整えて、今年の梅雨、台風期を迎えてほしい。
- サイトバンカ建屋について、地下水の流入箇所が発見できたことは前進。引き続き調査を進め、経路を特定し早急に対策すること。また、サイトバンカ建屋以外で同様の事象が発生した際の備えにもなるので、原因究明にもしっかりと取り組んでほしい。
- 1／2号機排気筒解体の遅れについて、色々な作業がある中でリソース配分を考えることは重要ではあるが、今回のようなミスに対する県民の不信、不安は大きい。しっかりと本件を受け止めて、県民の不安がない中で作業を行っていくことが重要であり、情報共有、コミュニケーションのあり方を含め、しっかりと対応すること。

4. 次回以降の日程

次回の開催時期については、決定次第事務方より連絡。